

## カナダの金融市場動向 Weekly Report

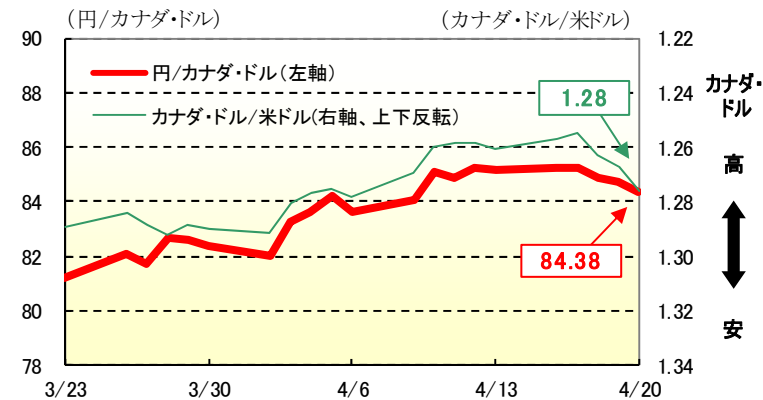
【2018年4月14日～2018年4月20日の推移】

### 【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円は下落し、カナダ5年国債利回りは上昇しました。

先週は、米国の金利や原油価格が上昇したことなどが、カナダの金利やカナダ・ドルの上昇圧力となりました。一方、CPI(消費者物価指数)が発表され、市場の予想を下回る伸びとなったことなどが、金利低下やカナダ・ドルの下落圧力となり、週を通してみるとカナダ・ドル円は下落しました。また、政策金利が発表され、事前の予想通り据え置きとなりました。

### 【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年3月23日～2018年4月20日)



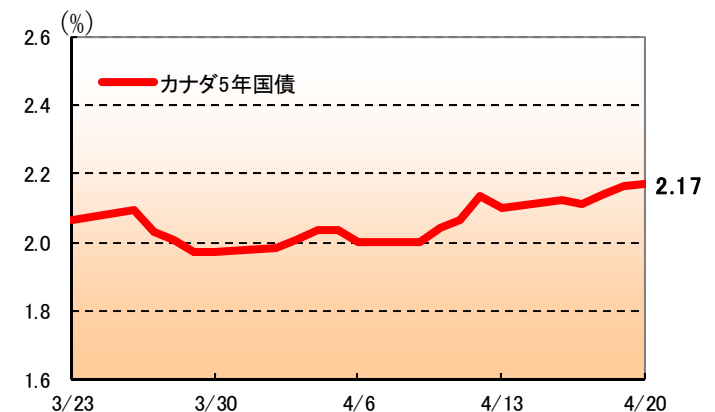
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。  
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 【2】今週の見通し

今週、カナダでは特段重要な経済指標の発表はありません。一方、米国では四半期GDP(国内総生産)の発表があります。米国経済の堅調さが確認される結果となれば、米国の金利が上昇し、それに連れてカナダの金利も上昇圧力が高まるとみています。

また、先日行われたシリアへの空爆が1回のみとなったことや、米朝首脳会談開催へ向けて調整が進んでいることなどから、足元では市場のリスク回避的な姿勢がやや後退しており、金利上昇や円安圧力が高まりやすい環境だとみています。

### 【カナダ 金利推移】 (2018年3月23日～2018年4月20日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>